

初期コミンテルンと 東アジア

「初期コミンテルンと東アジア」研究会 編著

コミンテルンと東アジア各国社会運動の関係はいかにして始まったのか。

この問題は、資料環境が改善されたにもかかわらず、

未解明のままに半ば捨て置かれている。

モスクワ・アルヒーフを駆使した7編の論文により、

日本、朝鮮、中国、モンゴルとコミンテルンの接点が

初めて明かされる——

A5判・上製・352頁

2007年2月刊行

定価 [本体 4,286円 + 税] = (4,500円)

ISBN978-4-8350-5755-2 C3030

執筆者

生駒雅則 IKOMA Masanori

石川禎浩 ISHIKAWA Yoshihiro

水野直樹 MIZUNO Naoki

寺山恭輔 TERAYAMA Kyosuke

山内昭人 YAMANOUCHI Akito

ユ・ヒョジョン (劉孝鐘) YU Hyo-Chong

不二出版

「まえがき」より

ロシア十月革命ののち、ロシア共産党の主導により、1919年にモスクワで設立されたコミンテルンは、1943年の解散に至るまで、長期にわたって世界政治、特に各国における社会主義運動に極めて大きな影響を与えた。コミンテルンの実態解明を抜きにしては、戦間期の世界史を理解することは不可能であると言っても過言ではあるまい。

とりわけ東アジアにおいては、その直接的働きかけによって、1920年代初頭に日本、中国、朝鮮、モンゴルなどで相次いで共産主義政党が成立し、第二次世界大戦までの間、それら地域の社会運動、革命運動に決定的な作用を及ぼしたことはよく知られている。かかる重要性ゆえに、コミンテルンと東アジア各国社会運動の関係、特にその関係の発端については、戦後から80年代にかけて、かなりの研究がなされた。

コミンテルンと各国、各地域の党派や人士がいかにして接触し、関係を持つに至ったのかという初期の状況は、それが各国の共産主義政党の出自とも関わるため、それを解明することにながりの精力が注がれてきたのは事実である。だが、周知のように、ソ連の体制下にあつては、コミンテルンの運営実態や各国共産党とのやりとりなどを生の形で伝える原資料は、到底一般の歴史研究者の利用し得るものではなかった。かくて、いわゆる冷戦時期になされた研究の多くは、公刊されたコミンテルンの公式文書や刊行物を、関係者の書いた——時に多くのバイアスのかかった——回想録とつなぎ合わせて読み解いていくという手法をとらざるを得なかったのである。

こうした資料上の制約を解消するコミンテルン文書の公開が、ソ連という社会主義体制の崩壊によって実現したことは、ある意味で、皮肉な巡り合わせであった。そしてそれ以上に皮肉な事態は、かかる資料状況の好転をもたらしたソ連の解体が、間接的に国際共産主義運動史研究の意義そのものがなくなったことを意味するかのよう理解されてしまったことであった。1990年代以降、コミンテルン文書をはじめとする旧ソ連の機密文書の発掘によるいわゆる「真相究明」の書籍は、日本でもいくつか登場したが、かつて取り組まれた問題——コミンテルンと東アジア各国社会運動の関係はいかにして始まったのか——は、資料環境が改善されたにもかかわらず、未解明のままに半ば捨て置かれたのである。

本書は、未解明のこの課題を力を合わせながら解決しようとしたメンバーたちの論文集である。(以下略)

執筆者紹介

ユ・ヒョジョン(劉孝鐘)……………第1章
1954年大韓民国生まれ。和光大学人間関係学部教授。主要論著『変容するモンゴル世界 国境にまたがる民』(共著、新幹社、1999年)、『「国民」形成における統合と隔離』(共著、日本経済評論社、2002年)

山内昭人……………第2章・第3章
1950年生まれ。九州大学大学院人文科学研究教授。主要論著“‘Internationalized Bolshevism’: The Bolsheviks and the International, 1914-1917,” *Acta Slavica Iaponica; A Journal of Soviet and East European Studies*, Vol.7, 1989. 『リュトヘルスとインタナショナル史研究——片山潜・ボリシェヴィキ・アメリカレフトウィング』(ミネルヴァ書房、1996年)

寺山恭輔……………第4章
1963年生まれ。東北大学東北アジア研究センター助教授。主要論著「ソ連極東における鉄道政策：軍事化と政治部設置(1931-34年)」(『西洋史学論集』36、1998年)、「ソ連極東における動員政策：1931-1934年」(『ロシア史研究』66、2000年)

石川禎浩……………第5章
1963年生まれ。京都大学人文科学研究所助教授。主要論著『中国共産党成立史』(岩波書店、2001年)「農村革命へのシフト——中国共産党の農民運動方針とコミンテルン」(『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所、2001年)、「中国共産党第二回大会について」(『東洋史研究』63-1、2004年)

水野直樹……………第6章
1950年生まれ。京都大学人文科学研究所教授。主要論著「朝鮮における新幹会運動とコミンテルンの民族統一戦線論」(『橋女子大学研究紀要』14、1987年)、「満洲抗日闘争の転換と金日成」(『思想』912、2000年6月)、「コミンテルンの朝鮮共産党承認をめぐる」(『青丘学術論集』18、2001年)

生駒雅則……………第7章
1953年生まれ。大阪外国語大学非常勤講師。主要論著『岩波講座世界歴史 第23巻』(岩波書店、1999年)、『ユーラシア・ブックレット69 モンゴル民族の近現代史』(東洋書店、2004年)

目次

まえがき
第1章……………ユ・ヒョジョン(劉孝鐘)

コミンテルン極東書記局の成立過程
1 ロシア外務人民委員部シベリア代表部
2 シベリア外交代表部東方ビューロー
3 ロシア共産党シベリア・ビューロー東方民族セクションと「コミンテルン東アジア書記局」
4 「極東書記局」のためのたたかい

第2章……………山内昭人
片山潜、在米日本人社会主義団と初期コミンテルン

1 コミンテルン・アムステルダム・サブビューローと日本社会主義者
2 コミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシー議長としての片山
3 在米日本人社会主義団(1)
4 在米日本人社会主義団(2)
5 片山のモスクワ行とパンアメリカン・エイジェンシーの解散
6 片山による理論的準備

第3章……………山内昭人
片山潜、在露日本人共産主義者と初期コミンテルン

1 朝鮮人と中国人による最初の試み
2 シベリアでの吉原太郎
3 訪露した田口運蔵と吉原との共同
4 日本人密偵容疑者たち

第4章……………寺山恭輔
革命ロシアからの密使と中国——ミュレル、ポポフ、ヴィレンスキー・シビリャコフ、ユーリン・ミッション、ポレヴォイ、スタヤノヴィチの活動を中心に

1 コミンテルン研究の新段階
2 ロシアにおける中国研究

3 ハンガリー人ミュレルの手記にみる革命ロシアと中国との初期の接触
4 ポポフ大佐の中国への派遣と孫文との接触
5 ヴィレンスキー・シビリャコフの活動
6 ユーリン・ミッションとホードロフ、イヴィン
7 中国学者ポレヴォイとコミンテルンへの協力
8 複数の名を持つ革命家スタヤノヴィチ(ヤコヴレフ、ミャーチン、ミノル)
9 その他の情報収集ルート

第5章……………石川禎浩
初期コミンテルン大会の中国代表
1 第1回大会
2 第2回大会
3 第3回大会
4 第4回大会

第6章……………水野直樹
初期コミンテルン大会における朝鮮代表の再検討——第1回大会から第5回大会まで
1 第1回大会
2 第2回大会
3 第3回大会
4 第4回大会
5 第5回大会

第7章……………生駒雅則
初期コミンテルンとモンゴル——シュミヤツキー、リンチノとモンゴル革命
1 ロシア革命とブリヤート・モンゴル
2 モンゴル民族解放運動の高揚
3 モンゴル革命とシュミヤツキー、リンチノ

人名索引
* 以上は簡略化した目次です。実物はより詳細な目次をつけております。



内務省警保局 編 [大正 13 年～昭和 19 年刊]

外事警察報 全 67 巻・別冊 1

別冊＝解説（石堂清倫）・総目次・索引
 A5 判・上製・函入・総約 42,000 頁
 揃定価 [990,000 円＋税]
 '87 年 5 月～'89 年 2 月配本完結〔復刻版〕

戦前の日本帝国主義国家権力を維持するための諜報活動は、内務省警保局が担当し、国内に対しては特高警察が、国外に対しては外事警察がその任にあたり、在日外国人の行動だけでなく、海外における共産主義運動、主にソヴェト連邦及び中国における運動の情報蒐集につとめた。『外事警察報』は、これら蒐集した資料を整理し、極秘のうちに少数者に頒布した月刊誌である。これを年毎に集約し、概況を述べたものが『外事警察概況』であり、本誌の姉妹誌である。

推薦＝石堂清倫・奥平康弘・尾崎秀樹・菊地昌典

内務省警保局 編 [大正 10 年～昭和 14 年]

外事警察報補巻 全 8 巻・別冊 1

別冊＝解説（荻野富士夫）・総目次・索引
 A5 判・上製・総 2,764 頁
 揃定価 [129,000 円＋税] '00 年 9 月刊〔復刻版〕

1999 年 8 月、警察大学の旧蔵資料が国立公文書館に移管公開された。その中には、内務省警保局の刊行物が多数含まれ、弊社が 10 年以上前に復刻刊行した『外事警察報』の欠号を補うことが可能となった。今回公開された 29 号分を、全 8 巻として復刻し、あわせて新たに「解説」を付し刊行する。特に、今回公開された中には、創刊号（大正 10 年 2 月）から第 23 号（大正 13 年 5 月）までが含まれ、本書の刊行の経緯を知ることができる。

廣畑研二 編・解説

戦前期警察関係資料集 全 4 巻

A4 判・上製・総 1,366 頁
 揃定価 [112,000 円＋税] '06 年 10 月刊〔編集復刻版〕

戦前期の社会運動に対する警察認識を示す歴史的資料を編集復刻。第 1 巻は、水平社綱領改正を指標として、第二次綱領を採択した 1926 年 5 月の第 5 回大会までの初期水平運動に関する資料。第 2 巻は、日露国交回復交渉前後に外事警察体制が整えられ、ロシアの極東戦略を警戒して作られた外事関係資料。第 3 巻は、1928 年の昭和天皇即位大礼の警衛資料。第 4 巻は、知事交替時に作成された「知事事務引継書」のうち京都府と大阪府の資料を収録。新発見資料多数収録。

推薦＝秋定嘉和・荻野富士夫

最寄りの書店に下記の注文伝票をお出し下さるか、弊社に直載ご連絡下さいませ。

内務省警保局 編 [昭和 11 年～昭和 13 年刊]

海外よりの左翼宣伝印刷物集

全 3 巻 解説（石堂清倫）付き
 A5 判・上製・函入・総 1、634 頁
 揃定価 [28,000 円＋税] '84 年 11 月刊〔復刻版〕

「国際通信」「太平洋労働者」「海上通信」等は、アメリカ共産党日本人部の刊行物であり、コミンテルン第 7 回大会の方針の紹介を中心に、外国から指導的論文を日本に送り込むことが主要な目的であった。

本書は内務省警保局が収拾した資料を、年一回刊行する形で出版されたものの復刻版である。今日なお不明部分の多い昭和 10 年代の日本共産党史研究にとって不可欠の資料であり、また、『社会運動の状況』『特高月報』を補うものである。

鹿地亘資料調査刊行会 編

日本人民反戦同盟資料

全 12 巻・別巻 1
 別巻＝解説・解説（井上 学）・総目次・関連年表
 A4 判・上製・総 4,900 頁
 揃定価 [455,000 円＋税]
 '94 年 5 月～'95 年 12 月配本完結〔編集復刻版〕

日中戦争期に取って中国側に投じ、日本人兵士の反戦運動を組織し、指導した鹿地亘の残した資料の集大成。反戦運動に参加した兵士の手紙、鹿地亘の周辺にいた中国人文学者の手紙など、これまで未整理、未発表の資料を多数収録する。日本の戦争に反対し、生命をかけて反戦のために闘った日本人の貴重な反戦闘争の記録として、研究者必備の資料である。なお、別巻として、全収録資料の総目次、関連年表、解説・解説を付す。

推薦＝犬丸義一・大江志乃夫・藤原 彰・小島晋治・丸山 昇・王曉秋

反帝同盟会 編／井上 学 解説

反帝新聞

B5 判・上製・518 頁・定価 [28,000 円＋税]
 '84 年 10 月刊〔復刻版〕

アジア唯一の帝国主義国内で、反帝国主義・民族独立の旗を掲げ、侵略戦争に反対し、国際的な反戦運動に取組んだ日本反帝同盟の機関誌紙・パンフレット類を収録。

不二出版

▶ 〒 113-0023 ▶ 東京都文京区向丘 1-2-12
 ▶ TEL 03-3812-4433 ▶ FAX 03-3812-4464
 ▶ 振替 00160-2-94084
 2007 / 2

注文伝票	書名・著者	発行	不二出版	TEL 03 (3812) 4433
		書名・著者	「初期ソビエト連邦の歴史」 研究会 編著 初期ソビエト連邦の歴史	定価 4,500 円 (本体価格 4,286 円 ＋税)
注文者	書名・取次名	注文数	ISBN978-4-8350-5755-2 C3030 ¥4286E	

